特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 庭園部会（第36回）

議事録

日時 令和6年2月26日（月）13:30～15:05

場所 西の丸会議室

出席者 構成員

丸山 宏	名城大学名誉教授	座長
仲 隆裕	京都芸術大学教授	副座長
栗野 隆	東京農業大学教授	（リモート）
高橋知奈津	奈良文化財研究所主任研究員	

オブザーバー

野村 勘治	有限会社野村庭園研究所
平澤 毅	文化庁文化財第二課主任文化財調査官
山内 良祐	愛知県民文化局文化部文化芸術課文化財室 技師

事務局

観光文化交流局名古屋城総合事務所
教育委員会生涯学習部文化財保護室

議題 ・二之丸庭園の修復整備について

配布資料 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 庭園部会（第36回）資料

事務局	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>本日は大変ご多用の中、第 36 回特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議庭園部会にご参加いただき、誠にありがとうございます。さて、本日議題といたしますのは、二之丸庭園の修復整備について、北園池護岸等の修理、余芳周辺の整備を予定しています。限られた時間ではありますが、皆様の忌憚のないご意見をいただき、しっかりと整備を進めてまいりたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>3 構成員、事務局、オブザーバーの紹介</p> <p>4 今回の議事内容</p> <p>資料の確認をいたします。A4 で表面が会議次第、裏面が本日の出席者名簿が 1 枚です。資料として、A3 で枚数の多いホッチキス留めが 1 部と、参考資料としてホッチキス留めのものが 1 部です。 それでは、ただ今から議事に移ります。ここからの進行は丸山座長にお願いいたします。</p>
	<p>5 議事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二之丸庭園の修復整備について
丸山座長	<p>早速ですが、議事に移りたいと思います。事務局から、ご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料 1、二之丸庭園の修復整備についてご説明します。資料は全部で 25 ページです。内容は、大きく 3 項目に分かれており、項目ごとにご意見をいただきたいと思いますと考えています。1 項目目が園池の護岸傾倒、2 項目目が余芳周辺整備の地形等、3 項目目が沢飛石と洲浜です。</p> <p>では、1 項目目、園池の護岸傾倒です。1 ページ目をご覧ください。1 北園池の修復状況です。二之丸庭園の北園池については、現在、余芳の移築再建、園池の修理を行っており、黄色で示したあたりで護岸のひび割れ、石組の修理等を行っています。本件では、黄色のエリアの園池での護岸傾倒の修理や、薄い緑色のエリアでの余芳周辺整備の地形等の整備をご相談したいと思っています。</p> <p>2 護岸傾倒等の修理です。(1) 概況です。タタキについては高さ 60 cm から 70 cm、確認できる厚みは 12 cm から 15 cm 程度です。園池の西側は版築、東側は表面を叩きながら構築したものと、目視で推定しています。(2) 傾倒の位置です。全部で 20 箇所あり、図に①番から⑳番で示しています。</p> <p>2 ページをご覧ください。(3) 傾倒等の修理方法です。図で示した 20</p>

	<p>箇所について、傾倒部 11 箇所、脱落部 1 箇所、欠損部 8 箇所に分類しています。それぞれの毀損の現況、推定する原因、修理方針、修理方法を表にまとめました。推定する原因、亀裂や傾倒の原因は、護岸の上部の石組の荷重や樹木の根、経年変化等を想定しています。修理方針については、タタキを取り外し原因に対処して再設置すること、上部の景石はできるだけ動かさないように対処すること、としました。修理方法です。左側に作業の流れ、アからカまで、右側に模式図を記載しています。まず、傾倒部の 11 箇所です。景石を三又で養生し、傾倒したタタキを取り外します。その後、堆積した土砂や樹木根を取り除く等清掃し、必要に応じて丸太等を使って石材を安定させます。取り外したタタキ護岸を据え直し、隣接部を結合し、そのほかの亀裂箇所の補修や、護岸の上部をタタキや鋼土で保護したいと考えています。</p> <p>続いて、脱落部の 1 箇所です。こちらは背面が無く、毀損の原因は、隣接部の傾倒等が考えられます。修理方針は、取り外して再設置したいと考えています。修理方法については、傾倒部に準じて行いたいと思います。</p> <p>次に、欠損部 8 箇所です。タタキが欠損しており、現状は上の写真のような破損したままになっている場所や、土のうで保護している場所があります。現状鋼土で保護されているところもあり、その場所はそのまま活かしてタタキ護岸を再設置することで進めたいと、修理方針に記載しました。修理方法は、版築もしくは正面からの突き固めを行い、隣接部と取り合わせて結合させていきます。傾倒が鋼土で保護されている場合はそれを活かし、背面土が浸食されている場合は、護岸の版築等とともに背面に土を突き入れたいと考えています。必要に応じて樹木根の除去や石材の安定化を図り、護岸の上部を鋼土やタタキで保護したいと考えています。</p> <p>以上、1 項目目の護岸傾倒をご説明させていただきました。なお、修理に使用するタタキは、表の欄外に※印で記載していますが、令和 4 年度、5 年度に亀裂部を修理しているタタキの配合で行いたいと思っています。</p>
丸山座長	それでは、ただ今のご報告に対して、ご意見、ご質問等をお願いします。
仲副座長	これまでの部会等現地を確認して話してきた内容が、きちんと明文化されて、示されていると思います。何点か疑問がありましたので質問します。脱落部のところで脱落箇所とありますが、脱落とはどういう意味でしたか。外れた部材があるのですか。
事務局	矢印の指す箇所が、外れてそのまま残置というか、置いてあり、外れている状況です。
仲副座長	⑱ - 2 の矢印の先は何を示しているのですか。
事務局	タタキの一部、両側と底辺の 3 辺、すべて亀裂が入っていて、少しずれた状態で現地に置かれている状況です。

仲副座長	それでは、右の欠損部のように、破線で囲ったほうがわかりやすいかもしれません。
事務局	はい。
仲副座長	何か部材があって、それを組み合わせてくっつけるということですね。
丸山座長	タタキの一部が落ちている。
平澤オブザーバー	タタキの一部が外れているだけです。
仲副座長	外れているだけか。
事務局	脱落片のようなものです。まるごと脱落ではなくて、片です。
平澤オブザーバー	以前はこの内側の部分に土が堆積していて、それを前回清掃して状況を確認しました。
仲副座長	そうでしたね。それでずれていることがわかったのですね。
平澤オブザーバー	そうです。
仲副座長	わかりました。
平澤オブザーバー	結果、ずれた部分を持ち上げて、その間を接着すれば戻ることが確認されたということです。
丸山座長	他、いかがですか。
高橋構成員	欠損部のほうは、材自体もない、なくなってしまうものという定義でよろしいですか。
事務局	はい、そうです。
高橋構成員	そうすると修理方針で、再設置というよりも再構築という表現になると思いました。部材が残っているものと残っていないもので、意味が違ってくると思いました。
事務局	表現を改めます。
高橋構成員	それと、タタキの片・パーツが外れたり、倒れたりしているものの中に、一部欠けている部分があるものが含まれていると思います。それについては無理に欠損部を埋めることはせずに、構造的に(3)欠損部の類型にあたるものだけを新しく構築するという方針でしょうか。
事務局	場合によると思っておりますけれども、修理方法の力の亀裂箇所の補修

	として、一部欠けてしまったところで、今後水位が上がった時に護岸が弱くなってしまうことが想定される場合は、欠けているところも含めて亀裂の修理というかたちで行ったほうがよいのかと思っています。
高橋構成員	亀裂箇所の中には、一部欠損箇所も含まれているということでしょうか。
事務局	そのように考えています。
丸山座長	20箇所の傾倒等の修理について、それぞれの箇所を庭園部会で現地確認や指導をして処置してもらうことになると思います。
仲副座長	目的はこの修理によって護岸を保護する、その結果、水が溜まるようになるということですよ。それに関して必要な処置は、傾倒修理に伴って行うということですよ。
丸山座長	そうですね。ただ、水が溜まるようになるかどうかはわからないところがあると思います。特に池底については、毀損しているところだけを埋めても、他の弱い部分で漏水して毀損してしまうかもしれませんので、どのように修理するか等これから検討することがまだまだあります。
高橋構成員	護岸の上部について、タタキや鋼土等で保護をするとありますが、上部は、タタキ護岸から景石までの間の細い部分という意味でしょうか。
事務局	そうです。ただ今後、護岸の上部の造作物の修理を想定しますので、明らかに造作物がない場所について保護するものです。庭園部会の先生方に確認していただきながら補修を進めていきたいと考えています。
丸山座長	現地で関係者がいろいろ知恵を出しながらやっていかなければいけないところなので、その時にはご協力をお願いしたいと思います。
栗野構成員	1点よろしいでしょうか。これまでの亀裂の修理等を見てきて、少し懸念している点があります。今は庭園の池の中に水は入っていませんが、修理が進んだ場合、タタキ護岸の土圧というか、水圧というか、要は池に雨水等が入った時に、タタキ護岸内部の水がどうやって逃げて無くなっているのか、ずっと疑問に思っています。当時、この池の中に水があれば、池に溜まっている水があることによって護岸が崩れることはなかったと思いますけれども、後世の段階で、今のような空池になると、タタキ護岸内部の土圧なり、水圧なりによって亀裂が生じた部分もあるのだらうと思っていました。護岸傾倒等の20箇所程度の修理が進行していくと、どこかの修理した部分に土圧、または水圧の負荷がかかって、また亀裂がどこかに入るのではないかと懸念があります。これまで修理をしたところにおいて、現状、大雨が降って池に水が溜まった後にも良好かどうかを伺えればと思いました。
事務局	今まで行ったこととしては、護岸のひび割れ、亀裂の入ったところに

	<p>タタキを埋めました。また、資料には記載していませんが、応急処置として、池底で大きく抜けているところに土のうを入れて、タタキの下が空洞になって落ちないように処置している場所があります。護岸のひび割れ修理については、令和4年度、令和5年度の2か年にわたって行っており、令和4年度分については約1年経過しますが、それほど補修が必要な状況ではなく、良好に保っている状況です。令和5年度分は直近で行ったばかりなので、状況を見守ってまいります。そして、池底の土のうを置いた部分については、今までよりは水が抜けにくくなって、滞水がしやすくなりましたが、時間をかけて最終的には水は抜けており、護岸のひび割れの修理箇所等に、現段階では影響を及ぼしていない状況です。まだ取り掛かり始めたところで、今後みていかなければいけない状況です。</p>
栗野構成員	わかりました。
丸山座長	<p>直したから漏れないということではなさそうですから、それを今後どう考えて対応するかということがでてくると思います。水の抜け方が緩やかだったら良いのですが、現在の状況を考えて水みちができていのではないかと懸念しています。現在のひび割れ修理は伝統的工法のタタキで埋めていますけれども、護岸を保護するために今後よく検討しなければいけないところがでてくることも考えられます。</p>
野村オブザーバー	<p>そういう意味では、漏れてもいいということを積極的に考えないといけないかもしれません。過去の発掘調査で池底に敷いてあった川原石を除去していますが、これは水が漏れてもよい、少し水が張られて、その後水がひいてしまっても枯山水で観られる状況をつくるというやり方です。一定の漏水を前提にすることも考えていかなければいけないと思います。</p>
丸山座長	<p>今の野村さんの発言のとおり、雨で水が溜まって、しばらくはあって、その後抜けていくという考え方はあり、それで池らしい雰囲気であればとも思います。それは今後検討していかなければいけないことです。とりあえずは、ひび割れ等欠損部を直し、その後の様子を見ながら考えていかなければいけないかと思います。</p> <p>池の修理については、これから本格的に行われることになるので、長丁場にはなりますが、状況を確認しながら、将来的なところも含めて、皆さんと一緒に考えてもらいたいと思います。</p> <p>では、2項目の余芳の周辺整備の地形等について、ご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料の3ページ目、3-1 余芳周辺の整備からご説明します。1行目に記載していますが、余芳周辺の地形、園路、延段、沢飛石、洲浜について検討した内容をご説明します。なお、ページ数が多いので、整備内容にいたる検証部分については、流れのみご説明します。3ページでは、関連の絵図や写真を掲載しています。</p> <p>4ページからは、保存管理の指標である御城御庭絵図と尾二ノ丸御庭之図の比較検証や、発掘調査との比較検証をしています。</p> <p>6ページをご覧ください。絵図2点の比較検証をしており、御城御庭</p>

絵図の⑤番の小山の連なりや、尾二ノ丸御庭之図で同じ箇所が⑫番の色の濃淡で描かれている、そして、両図に共通しますが、⑥⑬番のつづら折れの園路があり、勾配のある部分と平坦な部分の描き分けがされていることがわかります。

8 ページをご覧ください。御城御庭絵図と発掘調査結果の比較検証です。絵図では、北園池が強調して描かれています。園池が東西に長くあって、位置等は正確ではないですが、遺構で確認されている庭園の構成要素がすべて描かれており、実態を反映されていることがわかりました。

これらの検証結果をふまえ、整備内容を検討しました。9 ページをご覧ください。計画高を検討しています。計画高の検討にあたり、図面の右下に整備の考え方を記載しています。ア整備の考え方として、1 点目は、遺構の保護を最優先して、発掘調査結果、絵図等の検証をふまえて最も適切な条件を検討します。2 点目は、検出状態がよく、露出に耐えられる園池護岸の石組、タタキ等、そして、沢飛石は基本的に露出展示として、洲浜等劣化が懸念されるものは、遺構保護のため、その上部に復元整備して展示する、といった考え方をお示ししました。

次に、このページの図についてご説明します。余芳、石組等、計画平面図は黒で表示しています。現況の等高線は青の実線、計画の等高線は赤の点線でお示ししています。内容については、具体的には権現山の裾野でいくと、現況の青の実線の 16.0 よりも、計画の赤の点線 16.0 が上にあって、一部、切土にして緩やかにします。同じことが余芳の西側エリアにもあります。余芳の真ん中あたりを通過していますが、これが現況の青の実線 14.0 は、計画の赤点線では 13.8 になるので、切土をして緩やかにするところになります。また、計画の赤点線は 13.5 まで表示されていますが、13.5 から露出する園池のところまでは現況の高さとなります。さらに、余芳の東側には、計画の赤点線がありますが、こちらは築山として盛土します。

今ご説明した内容の断面については、この図で位置をお示ししています。A - A' 断面から I - I' 断面まで記載しています。A - A' 断面は、余芳から木橋の中心を結ぶ線での断面。B - B' 断面は、園池の南側部分で東西に切った横断。C から I まで、西から東へ順に、南北に切った縦断をお示ししています。こちらの概要は、図面の右下、イ地盤高さ設定および園路配置の検討で記載しています。

まず、A - A' 断面ですが、10 ページを併せてご覧ください。余芳周辺については、兵舎遺構から保護層を 20 cm くらい設け、そこから露出展示の園池や園池の橋台に向けて緩やかな勾配で擦り付けていくかたちになります。次に、C から F までの断面については、11 ページの D - D' 断面を例にご説明します。右側が権現山で、権現山から、左側の施工済の石組まで盛土安定勾配の 1:1.8 を確保して切土します。整備済の石組から露出展示の園池護岸までは擦り付けとし、護岸に近い部分は遺構面が園路に隣接するかたちになります。続いて、B - B' の横断や G から I までの、エリアの西側の断面をご説明します。10 ページの、B - B' の横断でご説明します。図の右側が余芳のあるエリアになります。こちらのほうは平坦に、園池に向けて緩やかな勾配で切土します。図には延段や飛石の設置等で兵舎遺構に近接する箇所がでてきますが、遺構に近接する箇所では、施工時に遺構の位置の確認をし、石材の大きさ、形、配置等で遺構に影響がないように整備を進めたいと考えています。また、造

	<p>成はない想定護岸付近の高低差については、必要に応じて芝生等の植栽で押さえることをしたいと考えています</p> <p>15 ページをご覧ください。計画高の検討をふまえた計画平面図となります。</p> <p>16 ページをご覧ください。こちらのページから飛石と延段の検討を行っています。飛石と延段については北園池で遺構が確認されていませんので、庭園内の他のエリアを参考にしました。飛石については、多春園や権現山、二子山を参考にしています。検証内容は17 ページと18 ページに記載しています。18 ページの右側をご覧ください。飛石の構造検討として、(ア) 修理方針と (イ) 修理方法を記載しています。修理方針では、a 余芳園池と b それ以外のエリアに分けて考えています。a 余芳園池の飛石の修理では、17 ページの図 3-2-12 の多春園、同じ建物周辺部ということで、そのオルソ画像を参考にして石材の選定や配置で変化に富むようにしていきたいと考えています。b それ以外のエリアについては18 ページをご覧ください。二子山の発掘検証結果で写真 3-2-3 と 3-2-4 を掲載しています。こちらの写真のように、余芳園池、建物付近よりも変化を抑えたかたちで進めていきたいと考えています。そして、構造としては、土極めを行い、高低差のあるところは蹴上が 10 cm から 20 cm で進めていきたいと考えています。</p> <p>19 ページをご覧ください。延段の構造検討です。延段についても北園池で遺構が確認されていないので、庭園内で唯一検出された豊場山下門を参考にしています。19 ページの右下に修理方針と修理方法を記載しています。修理方針としては、遺構を参考に石材を選定し、絵図等をふまえて延段幅は 1m 程度、長さは 3.7m 程度で考えています。そして、構造は、碎石路盤上にタタキで石材を固定、目地を深目地としたいと考えています。</p> <p>以上、2 項目目の余芳周辺整備の地形の検討です。</p>
丸山座長	<p>造成の考え方として、尾根筋なのか、谷筋なのかが大きな問題です。それと、切土をすると土が余りますが、その処理はどうするのか。現在は整備計画の第 1 次工事エリアであって、今後整備するエリアの造成については庭園内で発生する土で処理できれば一番合理的です。そして、等高線で石の高さ等が示されていますが、尾根、谷、あるいはアンジュレーションを造成でつくるのが大切で、造成後に幾分沈むことも勘案すると詳細に石の高さを設定するのは難しい、この図で示した内容に近い造成をするというレベルでしかできないのではないかと思います。</p> <p>以前、権現山を整備した際にもありましたが、野村さんと 2 人で現場に立ち会って、ここをもう少し高めようか等、その場で確認して指導等行う部分があります。ですから、造成については、詳細に高さをつめるよりも、なるべく発生土のロスがないようにしてもらえることを、まず考えてほしいです。</p> <p>飛石については、多春園で遺構がありますし、抜き取り痕 2 箇所の沢飛石の大きさは、土台からおおよそ推定できますので、15 ページの計画平面図に描かれているのが少し大きすぎるのではないかと思います。ちなみに、多春園の飛石の大きさは、どのくらいですか。</p>
事務局	<p>17 ページをご覧くださいと、表の左側、発掘調査結果の 2 マス目に石の寸法があり、円形、多角形で $\Phi 230 \times 370$ から $\Phi 430 \times 560$ です。</p>

丸山座長	そうすると計画平面図の飛石は大きすぎるのではないかと思います。
事務局	そのとおりです。計画平面図は、絵図を参考に行っている部分もあって、大きく描かれている部分もあります。延段の幅が1mとありますので、それと比較すると同じくらいの大きさになります。
丸山座長	多少大きいのはいいと思いますが、あまり大きいのも違和感があります。根拠としては、多春園で検出された飛石の大きさに準ずるような、調査の成果を反映させることがよいという気もします。
事務局	そのように考えていきたいと思います。 飛石の修理方針等に大きさの目安の数値を入れます。
仲副座長	事前に事務局から提示された資料から変わったところがありますか。
事務局	事前の資料からは、検証結果を充実したり、また検討した構造を記載したりしています。地形については変更ありません。
仲副座長	15 ページ等、飛石の上に等高線が記載されていますが、これは正確ですか。
事務局	今お示ししているのは、飛石の上を、例えば15 ページ中央あたりの雪見灯籠と記載したところでは、13.75 の線が石組の上を通っていますが、実際は、
仲副座長	地盤ですよ。
事務局	直近の地盤で数値をとっています。
仲副座長	そこは誤解のないように、飛石を抜いて線を記載してもらおうとよいと思います。また、事前の資料では、飛石の天端のところにそれぞれ標高が入っていましたが、今回は記載されていませんので、それがあっても少し地形が読み取れます。
丸山座長	それはやめたほうがよいと思います。
仲副座長	やめたほうがよいでしょうか。
丸山座長	記載したとおりには据えられないと思うのでやめたほうがよいと思います。造成した時に一定の沈下は想定されるので難しいかと思いました。
仲副座長	飛石の仮据えの際の調整に役立つかと思ったので発言しましたが、施工上可能であれば、どちらでも結構です。
高橋構成員	6 ページに絵図での地形の検証があり、深く読み取りがされています。例えば東側の園路について、尾二ノ丸御庭之図の⑭番で濃い単色で描か

	<p>れた起伏の表現が2箇所あり、うち東側のほうは、15ページの計画平面図に反映されているように見えますが、西側のほうは反映されていないところがあったりします。また、7ページの尾二ノ丸御庭之図の⑨番、急勾配のところを階段状に描かれているのではないかと読み取りについて、15ページの計画平面図に反映されているのかどうかということもわかりません。計画平面図の等高線を見ると、絵図での階段状の園路3箇所のうち、一番右側の園路にあたるところが急勾配にはみえないため、読み取りともう少し整合性があるとよいと思いました。</p>
事務局	<p>6ページの絵図の濃淡ですが、築山の部分と石組の部分になるのかと思っています。築山は盛土というかたちでお示ししていて、石組のあたりはこれから検討するところと思っています。</p> <p>また、園路の表現、整備内容につきましては、急勾配のところは、何か階段状のものを造らないといけないと思っていますが、まだ検討に至っていない状況です。今は、園路として表示している部分で、土面の園路なのか、階段を造るのかの描き分けが、計画平面図上でお示しできていません。もう少し詳細を検討した上で表現するようにします。ただ、階段の構造については、これから検討ということで、ご相談していきたいと思っています。</p>
丸山座長	<p>今の件は、造成してから検討したほうがよいと思います。設計上で石段であったり、築山を描いたりしていますが、すべてが図面どおりにはならないような気がします。先ほどお話したように、尾根筋なのか、谷筋なのかだけの考え方で整備しても難しいかもしれませんので、2つの絵図を参考に地盤を切り盛りするとして、あとは現場で合わせていかなければ仕方ないということかと思っています。計画しても遺構の保護や実際の要素の見え方等から変更することも多々ありますし、また、2つの絵図でも少し違うところがあって、それをどう解釈して計画に整合させるかといったことも難しい気がしています。</p> <p>そして、15ページ計画平面図の中で、絵図を参考にして飛石が置かれていますが大きさに違和感があります。例えば、図の池の北側の黒の二重線に黄色で着色された園路が西から延びてきて、その先に大きい飛石があるのは調和がないように思います。エリア内の園路全般の幅が広く見えますし、橋も大きく描かれている気がします。大名庭園ですから、派手さを感じるような、ある程度の大きさはこの庭園の特色としてやるのはよいと思います。ただ、池の中の遺構の飛石の大きさは、新たに据えるものとして描かれた飛石と比較すると、それほど大きくはありません。池や多春園の遺構を勘察すると、例えば15ページ計画平面図の左下にある延段の東側の飛石も非常に大きいです。絵図で強調して描かれたことを実際の整備に反映すると飛石が目立ちすぎてしまうのではないかと、危惧します。発掘調査結果、多春園の飛石や池の沢飛石の大きさを参考にして計画したほうがよいのではないかと思います。</p>
事務局	<p>発掘調査結果、遺構を踏まえながら、飛石の大きさを設定していきたいと思っています。できれば、城内で保有している石材を活用しながら庭園を整備していきたいと考えており、石材選定の際には、先生方にご指導いただけたらと思っています</p>

栗野構成員	<p>事前に事務局から資料が提示された際、絵図をそのまま設計にあてはめると、縮尺や距離等が異なることから、飛石を大きく描かざるを得ないみたいな話があったかと思います。</p> <p>基本的に 15 ページの図はあくまでも計画であって、実際の手に入る飛石の大きさによって、計画と工事とではおそらく違ってくると思います。事前に事務局から資料が提示された際、斜面の飛石の蹴上が 25～30 cm になるという大きな問題があり、そういうところは、飛石を小振りにして、できるだけ段数を多くしないと、歩くのに現実的でないという話をしました。あくまでも、これは計画の平面図であって、飛石の施工は、手に入る飛石の数と大きさによって変更されるということだと思いました。</p> <p>それから、丸山先生から飛石が大きいという話がありました。特に余芳周辺の飛石については、絵図をそのまま当てはめると非常に大きいと思います。基本的に、畳を歩く歩数と、露地の飛石の歩数は相関があって、茶道では約 1.8m の畳の長さを 4 歩か 5 歩で歩くとされており、露地についても、約 1.8m に 4、5 枚の飛石が入るスケールで造られるのが通常だと私は認識しています。スケール感に関しては、再検討を要するかと思いました。</p> <p>そして、丸山先生か、仲先生からご発言があったかもしれませんが、15 ページの図の飛石に数値が書かれていることについて、あくまでもこれは地盤面の高さであって、飛石の天端の高さではないということ、改めて確認させていただければと思いました。</p>
平澤オブザーバー	<p>それは皆同様に思っていて、違和感があります。加えて、15 ページは、修復計画平面図というタイトルになっていますが、最終的な修復の姿は高木を含めた植栽があるはずですが、ですから、現時点では、低木植栽を除いたうえで地割修復計画平面図としたほうが適切だと思います。手順としては、このような地形や園路等の設えをしてから植栽をしますが、当然、どの場所にどのような種類や大きさを配植するか等を考えて計画しなくてはなりません。それは絵図を参考にすることとなりますが、絵図には特に桜類の表現が多くあって、それを植えることも含めて考えると、飛石の在り方としては、実際にはこの図よりも少しゆとりをもたせるようになるかもしれないとも思います。15 ページの図はあくまで地形と配石の関係を示したものであって、位置が判明している木橋や余芳は入っていてもよいかと思いますが、植栽は最終的な修復の姿を現す図で記載したほうがよいかもしれない。</p>
丸山座長	同意します。
平澤オブザーバー	低木だけ植えて、高木は植えない計画なのか、という誤解を招きかねません。
事務局	飛石の大きさや低木等修正します。
丸山座長	同じく 15 ページの図について、石組等石材の稜をしっかりと描くべきだと思います。これは平澤主任調査官がよく指摘されることです。

平澤オブザーバー	石のしわか、溝か、わからないような線ではなく、石の形を、稜線を描いてもらったほうがよいです。
事務局	よくご指摘をいただいているにもかかわらず、漏れており申し訳ありませんでした。描き直します。
仲副座長	石材が多面体の時ですね。
平澤オブザーバー	そうです。雰囲気でも描くような石の絵ではなく、石の形を描くべきです。
丸山座長	稜線を描いて、尖る、平坦な形を描くと、石組と飛石との区別がつかます。
平澤オブザーバー	概ね飛石は上面が平坦ですから、外側が太い線で、その内側に細い線があれば、飛石だということがわかるかと思います。
事務局	描き分けをしっかりとします。
丸山座長	延段も違和感がありますが、あまりいろいろなことを言ってもとも思うので、最低限として飛石の大きさについては、遺構を勘案して調整してください。
仲副座長	飛石や延段等の復元にあたり、試験施工として、事前にくらか造って確認をしたほうがよいと思います。
事務局	先生方のご協力をいただきながら行うことができればと思います。
丸山座長	野村さん、この図の延段はおかしいと思いませんか。
野村オブザーバー	おかしいと思います。
丸山座長	通常でこのような延段を見たことがないですよ。
野村オブザーバー	絵図のとおりかもしれませんが。
仲副座長	絵図のとおりにしては、石材の数が多いように思われます。
丸山座長	あまり修正に時間がかかってしまってもいけないので、飛石大きさ等は発掘調査結果を参考にしてもらおうということをお願いします。 ほか、いかがでしょうか。
山内オブザーバー	9ページの計画高を検討した図の右下に記載された整備の考え方については、遺構の保護を最優先にと記載されていますが、10ページの断面図、A-A'断面、B-B'断面で、兵舎の遺構に整備する面が近すぎることに気がなりました。設置する石を加工する等のお話はされていましたが、それにしても近すぎるのではないかと思いますので、考え方をも

	う一度お伺いしたいです。また、遺構の保護については、施工的にこれが正しい図であるのかも先生方のご見解をお伺いしたいと思いました。遺構の保護は慎重であるべきかと思しますので、まず、事務局のお考えをお伺いしたいです。
事務局	言われましたとおり、遺構は保護する、破損のないようにしていくということです。設置する石については、実際に石を選ぶ時に薄いものを選ぶ、配置でずらす、どうしてもこの位置でなくてはいけないというところがあるかもしれませんが、基本的には少し横にずらす等の対応をして、遺構に影響がないように整備を進めていきたいと考えています。
平澤オブザーバー	B-B' 断面の延段は、周辺の地盤と同じような高さで記載されているので、もう少し上げれば、接しないが近いという感じに理解できるようになるのではないのでしょうか。
事務局	B-B' 断面で、切土で薄く切っている部分もあり、丸山先生がおっしゃられたとおり、素造成をした段階でほぼ現況で済むかもしれませんが、露出の池との取り合わせを考えつつ、兵舎遺構を含めて、きちんと遺構を保護するかたちで進めたいと思っています。
平澤オブザーバー	ただ、説明の図としては、切土はこのままであるとしたら延段の表現のところは地盤面の上になるのではないかと思いました。
事務局	そのように修正します。
丸山座長	高い位置にある兵舎基礎のレンガをどういうもので保護するかというのがありますし、地形はアンジュレーションで、遺構の位置が高い部分を勘案して地形をつくれれば違和感はないです。 それでは、図面を適切に修正してください。
事務局	続いて、3項目目、沢飛石と洲浜です。3-3、沢飛石です。20ページで史料を、21ページで絵図と発掘調査結果を比較しながら確認したうえで、22ページで構造を検討しています。沢飛石については、抜き取り痕が2箇所あり、その2箇所に見合う飛石を選定して、底面にタタキを入れて設置したいと考えています。具体的にはAからCまでの断面をお示ししていますが、抜き取り痕のあった、図面の左下、赤で囲った沢飛石を想定して進めていきたいと思っています。 23ページをご覧ください。3-4洲浜です。23ページ及び24ページで史料、発掘調査結果を確認したうえで、構造検討をしています。 24ページ、絵図と写真の比較をご覧ください。左下、図3-4-3の洲浜部分と写真3-4-2を見合わせると護岸の位置、絵図及び写真で①番②番③番とありますが、護岸の景石が2石①番と③番が抜けていると考えられます。それをふまえて、25ページをご覧ください。洲浜については、園池の露出の部分とのすり合わせの箇所になりますので、修理方法について2案お示ししています。修理方針、修理方法で(ア)(イ)の2つがあります。 まず1案目、(ア)の案については、構造を右上に記載しており、抜け

	<p>たと考えられる洲浜際の護岸の石、2箇所を勘察して、石2石を設置しながら、遺構のタタキの前に新たなタタキを全面に版築し、洲浜の1段目、2段目に保護層を設けて復元する提案です。2案目(イ)の案については、構造を右下に記載しており、洲浜の1段目は露出させて礫を置き、2段目からは、保護層を設けて礫を置くかたちで進めたいと考えています。</p> <p>3項目目は以上です。</p>
丸山座長	ご質問、ご意見をお願いします。
仲副座長	25ページの洲浜の修理としては、(ア)及び(イ)のいずれの案も、抜けている石①番と③番は据えるということですね。
事務局	そうです。
仲副座長	24ページの図3-4-3や写真3-4-2をみると、①番の抜け石は②番の石と同じような高さに、番号の記載がもう少し上になるのではないですか。それとも発掘調査の所見で、かなり大きな石が入っていたということでしょうか。絵図でも大きく描かれてはいますが。
丸山座長	絵図では①番の抜け石は横長に描かれていますね。
仲副座長	横長ですね。
丸山座長	護岸の石は、どのようなものを選ぶか難しいところです。
仲副座長	護岸の抜け石は据えるのですよね。
丸山座長	据えたほうがいいと思います。
仲副座長	ただ、現地を勘察するとかなり短い寸法の石となりそうです。
丸山座長	ところで、22ページの沢飛石の構造図について、底面の状況がわかりづらい、池底からの立ち上がりを描いていないようにみえます。
仲副座長	タタキの部分にハッチか何かを入れて、わかりやすくしたほうがよいです。
丸山座長	構造としては抜き取り痕にタタキで留めることでよいと思います。問題は洲浜です。洲浜に保護層を設けるのは、違和感があります。
事務局	25ページ洲浜の修理の構造図(ア)の案については、1段目も2段目も保護層を設けて復元するかたちで記載しています。(イ)の案では、1段目は遺構を露出し、2段目からは周辺にある今年度据えた石組や今後据える飛石等を勘察して、2段目から保護層を設けて復元するということが案をお示しました。

丸山座長	ここは復元にならないと思います。絵図では長く表現された洲浜が他の部分と色を変える等して描かれていることが特徴になっていると思います。発掘調査で明らかにされたタタキをそのまま露出、あるいは修理したほうが、この池の特徴を出せるのではないかと思います。
平澤オブザーバー	池の直近で保護層を設けると地盤のデザインが変わってしまいますので、園池から離れたエリアから高さを調整して、洲浜は基本的には修復するのではないかと思います。庭園ですから、単に遺構を保存してその上に復元するというのではないと思っています。少なくとも飛石が据えられるあたりは、修理ではないかと思います。
事務局	そのように検討していきます。 少なくとも園池に近い部分は修理をして、その後ろで取り合わせ等を含めて一部復元することになるのかと考えております。
仲副座長	それで問題ないでしょう。
丸山座長	修理でよいと思います。それが、この池の特徴になります。
平澤オブザーバー	この事業では、庭園としての修理をするということが基本となります。余芳の再建位置の根拠となる遺構があったり、その付近には近代遺構が存在したりするので、混乱のないように基本的には近代の遺構も含めて保護するという方針をとっているわけですが、重要な要素となるこの遺構まで保護するとなると、庭園の修復をしているのか、遺跡の遺構保護の上で表現を出して修景しているのか、わからなくなります。
丸山座長	沢飛石と同じと考えてもらったらよいです。
平澤オブザーバー	そういうことなのだと思います。それから、24 ページの右下の写真 3-4-2 の①番②番③番については記載の位置が低すぎるので、上の方で書いてください。なお、①番は石が据えてあったことがわかりますが、③番は、図の 3-4-6 のオルソ画像でいうと②番のかなり直近に据えることとなります。そうすると、絵図のような洲浜の長い浜が表現されませんので、実際は③番はもっと南のほうにあるのではないかと思います。
丸山座長	現場で確認する等しながら絵図のとおりにするということかと思っています。今回の件だけでなく、植栽等絵図に描かれた内容をどう再現するのも考えていかなければいけません。池の護岸にはタタキの、乱杭のような表現も入っており、北園池の非常にユニークなところだと思います。
高橋構成員	発掘調査からわかる洲浜の構造がどうなっているのか、最適な施工の図面をつくる前に、構造を示す絵となる復元概念図を描いてみないと、修理の際にどこを目指すかという目標が見えないのではないかと思います。 そして、24 ページの右上のオルソ写真を見た時に、ちょうど丸く、礫が遺っている部分が何を意味しているのか、階段状に一段低くなって礫

	<p>が溜まっている部分が何を意味しているのか、といったことの解釈が、私もまだ理解できていない状況です。これはこういった意匠の痕跡としてあるのか、というところの理解を共有しておかないと、どう修理していくべきかが見えないと思いました。</p> <p>一見、洲浜の2段目の丸いところ等は飛石が抜けて、その礫が落ち込んでいて遺っていただけではないか等も考えられるので、それについて発掘調査ではどう検証したのか、気になりました。</p>
丸山座長	その可能性はあると思います。
野村オブザーバー	同感です。
高橋構成員	そういう考え方でいくと、洲浜の1段目に石や何か違う部材が入っていた可能性はないか等と思いましたので、発掘調査での見解を伺いたいです。
丸山座長	ここは難しいですね。
野村オブザーバー	そう思います。
丸山座長	州浜の発掘調査等をして構造を把握したうえで、どのように修理するかを決めることになると思います。
事務局	実際にどう修理していくのかは、まだ情報が足りないということで、先生方からもご指摘をいただきました。洲浜についてはもう少し情報を集めて、そのうえでご相談させていただくことでよろしいでしょうか。
丸山座長	ぜひ洲浜の1段目については、礫も遺っているので、その下がどうなっているのか構造を把握するべきだと思っています。それでない、どう修理するのかの判断はできないと思います。
平澤オブザーバー	<p>15ページの計画図には、洲浜の整備内容はまだ描かれていませんが、絵図と比較すると、洲浜と木橋の間の距離が、絵図ではこのように近接していないといったこともあるので、洲浜をどのように修理するかについてはさらに検証が必要かと思いました。</p> <p>そして、先ほど高橋さんが言われたように、まずこれが洲浜なのかどうかというところもあります。木橋の北側部分の在り方で、発掘された遺構と絵図とを比較して、もともとどういう構成であったかという考察がないため、困惑します。これは以前からお話していますが、検証の経緯もなく、いきなりこういう整備をしますといわれても理解ができません。まず、これがどういう設えとしてあったと考えられるのかを検討すべきだと思います。基本的には、それに向けて修復をしますが、諸所の条件から実際の整備としてはこういう図面になる、ということで、段階を追った説明資料としていただきたいです。</p>
丸山座長	ここはぜひ、発掘調査をお願いします。構造等を把握しないと整備ができません。

野村オブザーバー	<p>そうですね。23 ページの図 3-4-2 で、護岸のところに関連しますけれども、⑤番として着色され濃淡で描かれた護岸部の段差の表現がされています。図 3-4-1 では、②番として 2 本線が描かれています。この差は何なのか。確かに段差はあったと思われます。絵図と 24 ページの写真を見比べると、現状に対してより信憑性があるのは尾二ノ丸御庭之図のほうかなとも思います。こちらの絵図の表現のほうが直線的で、今の状況に近いです。御城御庭絵図のほうは、特に左側の曲がったところが表現されており、2 つの絵図の差が気になります。</p> <p>はたして洲浜だったかどうか不明で、段差自体が護岸だったという可能性もあるかと思しますので、もう 1 回読み込んでそれを絵にしてみ、検証を積み重ね、しっかりと表現できるかたちで進めなければいけないと思います。高橋さんの言われることに同感です。</p>
丸山座長	<p>できるだけ早く発掘調査をしていただければと思いますので検討をお願いします。</p>
栗野構成員	<p>沢飛石については、特に意見はありません。洲浜については、2 つの案を提示されていましたが、(ア) の案ではなくて (イ) の案で検討されるべきだと感じているところです。</p>
丸山座長	<p>洲浜については、東側のタタキの立ち上げを含めて考えるべきですので、やはり調査検討をもう少し重ねるといことですね。</p>
仲副座長	<p>そうですね。</p>
平澤オブザーバー	<p>資料について、15 ページの図については、計画をあらわす図ですから、現況の等高線は外したほうがよいと思います。</p>
事務局	<p>はい、現況の等高線を外すとともに、先ほどのご指摘のとおり、地割修復等の適切なタイトルに修正します。</p>
丸山座長	<p>それでは進行を事務局へお返しします。</p>
事務局	<p>いただいたご意見等につきまして、再度確認させていただきます。復元する飛石の大きさについては修正します。その際、栗野先生からご指導いただいた、約 1.8m で 4 歩、5 歩のスケールを意識しながら、再度描き直した図を先生方にご確認いただき、それをもって全体整備検討会議に付議させていただきたいと思っています。</p> <p>それでは、本日本日予定していた内容は以上となります。長時間にわたり熱心なご議論をいただき、また多くのご意見をいただきありがとうございます。以上をもちまして、本日の庭園部会を終了します。</p>

+